

議 事 録 兼 報 告 書

会議等名称	平成25年度 第1回 伊那市子ども・子育て審議会
日 時	平成25年9月26日(木) 午後7:00～8:00
場 所	市役所501会議室
欠 席 者	平澤郁夫委員 内藤松太郎委員 松崎行代委員
議 題	子ども子育て新システムについて ニーズ調査の実施について
議 事 内 容	
3	<p>市長あいさつ</p> <p>出生率の低下に伴う少子化、夫婦共働き家庭の一般化等により、子どもと家庭を取りまく環境は大きく変化している。</p> <p>子育て支援はこれまで力を入れて取り組んできた。</p> <p>子ども・子育てにおいては、伊那市においても、家庭における育児能力の低下や、子どもの虐待等が問題となってきている。</p> <p>子ども・子育てについては課題が多いが、生きる力のある子どもを育むため、委員の皆さまそれぞれの立場で建設的なご意見をお願いしたい。</p>
6	<p>会長及び副会長の選出</p> <p>委員長に「丸山毅一委員」副会長に「大久保照子委員」を互選。</p>
7	<p>審議</p> <p>(1) 子ども子育て新システムについて</p> <p><事務局> 資料N○1及びN○2により説明をする。</p> <p><委 員> 幼保一体化を進めているが、保育園は厚労省、幼稚園は文科省の管轄となっている。例として「水いぼ」についても対応が違う。縦割りは解消されるのか。</p> <p><事務局> 「水いぼ」の対応は、国からの通知に基づき対応している。</p> <p>国は、待機児童の解消を目指している。今後は小規模保育に対しても支援をしていくことになる。細かな運用については、今後決まることになる。また、幼保一体化は今後どのように進むか国の動きに注目していきたい。</p> <p><委 員> この制度の管轄は内閣府となっている。厚労省、文科省、内閣府にまたがり現場は混乱している。</p> <p>保育園は「保育指針」、幼稚園は「指導要領」がある。それぞれ内容は異なる。しかし、子どもは公平に育てていかなければならない。</p> <p>小学校へは、幼稚園と保育園から上がっていく。そのため年長になったら同じカリキュラムである必要があると考える。</p> <p>年長になったら小学校の疑似体験も実施していきたい。また、保育園と幼稚園、幼稚園と小学校の交流も行っていきたい。小学校へスムーズに上がっていける力をつけ</p>

たい。

(2) ニーズ調査の実施について

<事務局> 資料No 3、No 4 及びNo 5により説明をする。

<委員> 詳細は今後検討していくのか。

<事務局> 次回検討いただきたい。

伊那市においては、量は充足していると考える。質について加えたい。
どのような保育・教育を望むのか。

国の原案は判りにくいので、回答しやすいものにしたい。

<委員> この質問項目は量に偏っている。もっと広い範囲を加えるべきである。

大切なことは、何歳までの子どもを対象とし育ちを考えていくかではないか。視野を狭くしてはならない。0歳～5歳までとなっているが、少なくとも小学校卒業までの子どもを対象とし考えていくべきではないか。

資料No 1のP2 法の趣旨を外れてはならない。

対象をどうするのか。何を審議していくのか。

<事務局> 原案には5歳児までしか入っていない。

学校教育については、国においてその専門家があり方について検討しているので、審議はそちらに委ねる。

この場では、学校教育以外の分野について考えていただきたい。また、子ども全体を広く捉え、質についても議論いただきたい。

伊那市の子どもが健やかに育つことを願っている。

<委員> 伊那市の子どもが、どう育ってほしいのか考えていきたい

(3) その他 なし